



主催：さようなら原発 1000 万人アクション

問合せ：TEL.03-5289-8224 Email：sayonara2nukes@gmail.com

国際シンポジウム 世界が告発するフクシマの現状

—東京五輪で消されゆく原発事故被害—

東京電力・福島第一原発事故から 9 年、オリンピック目前の 3.11 を迎えようとしています。震災と原発事故から 10 年の節目でもある東京五輪は「復興五輪」とも呼ばれ、原発事故から復興する姿を国内外に発信することも大きな目的の一つとされています。しかし、年間被ばく量 20 ミリシーベルトで避難者に帰還を強制し、土地は依然汚染されたまま。それで「復興」を訴えることができるのでしょうか。原子力緊急事態宣言ははまだ出されたままなのです。

東京五輪を目前に、大勢の海外メディアが日本にやってきます。私たち「さようなら原発 1000 万人アクション」は、福島第一原発事故が収束するどころか、健康被害はさらに拡大していること、収束作業や除染作業などで被ばく労働が差別労働によってもたされていること、被害者への賠償や避難者の住宅提供を打ち切り、住民の分断をはかっている現状を世界に訴えていくことを目的に、表記の国際シンポジウムを開催します。3 月 20 日「さようなら原発全国集会」（亀戸中央公園）と連日の開催となりますが、多くの方の参加をお待ちしています。

◆開催日時：2020 年 3 月 21 日（土）12：30～16：40（開場 12：00） ◆参加費 1,000 円

◆会場：田町交通会館 5F ホール（東京都港区芝浦 3 丁目 2-22）JR 田町駅芝浦口（東口）より徒歩 3 分

◆プログラム（予定）

①12：30～ 福島は世界に告発する！ 映像で検証する福島の実相

今回の国際シンポジウムに向けて、映画監督である堀切さとみさん（最新作「原発の町を追われて～避難民・双葉町の記録」）と一緒に 2 月末より、現地に入り、隠された「原発被害の実相」（約 40 分予定）を映像記録し当日上映します。

聖火リレー出発地点の J ビレッジ ひだんれん：抗議の「ダレのせいかりレー」

飯館村 旧帰還困難区域 長泥地区調査 一除染土壌の農地造成再利用現場一

双葉町 中間貯蔵施設 大熊町駅前 帰還困難区域 津島地区の帰還困難区域と線量

浪江町請戸漁港から、福島第一原発とトリウム汚染水問題についての現地住民の声

② 原発事故被害者は世界に告発する！—被害当事者が語る、隠された「原発被害の実相」—

原発避難者 村田弘さん（「福島原発かながわ訴訟原告団」団長・ひだんれん幹事）

今野寿美雄さん（浪江町から福島市に避難 元原発作業員、子ども脱被ばく裁判原告団長）

帰還困難区域 鶴沼久江さん（双葉町から埼玉県に避難、農業・畜産業）

③14：40～ オリンピックとフクシマ 世界はフクシマをどのように伝えているか

進行 鎌田慧さん（さようなら原発 1000 万人アクション呼びかけ人）

韓国と台湾より 上前万由子さん（郡山市から台湾に自主避難、その後韓国の非営利の放送局勤務を経て現在は、ソウル市ソウルイノベーションセンター勤務）

ドイツ アンドレアス・シングラーさん（ドイツ在住ジャーナリスト）

フランス コリン・コバヤシさん（フランス在住ジャーナリスト、「国際原子力カロビーの犯罪」著者）

日本 片山夏子さん（東京新聞記者）